

國家も利益です。

石炭の價格に就きましても盛に論議されましたが今日需要家に賣買される品位に就て何等論議されなかつた事は甚だ遺憾に存じます。それは炭坑の契約とか又大口の取引は一筋もの即ち一種の純なるものでせうが商人仲介人より我々中小の需要家の手に這入る石炭は大抵の場合は混炭で一筋物でないと言ふて然りです。之れは公然の秘密であり商人の虎の巻です。何となれば商人は之れに據つて取引價格と利潤を調節して居るので嚴格に批判すると不正な問題ですが商賣としては自然の數であるのです。混炭と言ふ事の正邪問題よりも燃料節約又熱効率増進と言ふ點を特に考慮して戴きたいと思ふのです商人は營利目的の一方より混炭を實行して居るのですが其れが爲めに効率を低下させる様な事は實地の經驗上からやらないでせうが夫れは研究した上でないといふ判斷の出來ぬ問題です。

混炭と効率増進及其用途別などと言ふ事は大いに研究の餘地あるものと存じます。

拙筆に臨みまして燃料問題の研究は勿論必要ですが今や實行の時代であります即ち燃料の管理と言ふ事は工場監督制度が獨立の機關なると同時に又緊急切實である事を絶叫します最後に私は燃料酒精の眞實なる唱道者である事を申し上げて置きます。(終)

雜 錄

世界に於けるタンク船 (Petrol u n, 20 May, 19, 1924, 628) 本年三月中旬に於ける世界タンク船總數は一、〇三六隻(五〇〇噸以上のもの)にして其合計噸數は五、一六〇、五三四なり其内譯左の如し

隻 數 噸 數

北米合衆國	四六六	二、四六九、九九〇
アルゼンチン	一〇	二四、〇〇三
ベルギー	八	三七、〇四一
英 國	三六七	一、八九四、三二四
智 利	一	一、六〇〇
支 那	一	五一〇
キューバ	五	六、二九一
デンマルク	二	一一、五六一
ダンチツヒ	四	三六、六二四
ドミニカ	二	四、〇二二
オランダ	四三	一二六、一二四
佛 國	二三	一一〇、九四五
獨 逸	一〇	三四、〇六八
伊 太 利	一八	七五、一七三
日 本	一〇	五七、六八六
メキシコ	八	一五、七三三
ノールウェー	三七	一九四、八八一
フィリッピン	五	九、〇三四
ポルトガル	一	一、七三九
ルーマニア	三	九、〇五八
露 國	一	二、三九五
スペイン	九	三一、二九〇
スウェーデン	一	五、四八二
ヴァネズエラ	一	九六〇
計	一、〇三六	五、一六〇、五三四

(件)

燃料に関する主要記事 大正十三年五月以降の發行に係る國內刊行物中